

有機農業を軸とした 持続可能なまちづくり



南種子町
総合農政課

（南種子町有機農業推進協議会事務局）



町の概要

○位置と地勢

本町は、鹿児島港から高速船で 95 分、鹿児島市から海を隔てて南へ 15.3km、種子島（1市2町、西之表市、中種子町、南種子町）の南部に位置し、東西南の三方が海に面し、北は中種子町に接しています。

東西 10.8km、南北 12km、総面積 110.36km²で、起伏の多い丘陵地帯で中央部は、海拔約 200m、中央から西側にかけては、褐色森林土、黒ボク土の畑地帯が広がり、東南側には、河川が多く水田地帯が広がっている。



○人口と世帯

(令和 4 年 2 月末)

年 度	世帯数	人 口	世帯平均
昭和 35 年	2,757	12,566 人	4.55 人
昭和 60 年	2,935	7,976 人	2.71 人
平成 27 年	2,727	5,745 人	2.10 人
令和 4 年	2,926	5,413 人	1.85 人

農業の特徴

本町の農業は、昔から基幹産業として重要な役割を果たし、地域経済を支え農業農村の大自然を守り多面的機能を果たしております。

農地面積は2,160haを有し、中央を境に西側の畑地帯では、サトウキビ、安納いも、澱粉原料用さつまいも、茶、ガジュツ、葉タバコ、豊富な草資源を活用した畜産、南東側には水田が広がり、早期水稲『日本一早いコシヒカリ』の栽培、その他、果樹のポンカン・タンカンやパッションフルーツ、花きのレザーリーフファン、フェニックスロベレニー、ドラセナ、野菜のスナップエンドウ、春バレイショ、特用林産物のシキミ・ヒサカキなど、温暖な気候と恵まれた広大な農地を生かした農業が盛んです。

その一方で、規模拡大を進める農家がある中、小規模の兼業農家が多く、高齢化も進み農業従事者の減少、後継者不足、離農者の増加などにより、農地条件の悪い所では、耕作放棄地・遊休農地が増加傾向にあるなど、農業所得向上、担い手農家の確保・育成などが課題となっている。

このような中、生産基盤整備による優良農地の確保、高度利用、農業経営形態の法人化推進、地域ぐるみ活動、人・農地プランの推進により、中心経営体への農地集積を進め、担い手農家の確保、新規就農者の育成支援強化を図り、「土づくり」を基本にした農業の振興と地域特産作物の導入など地域の活性化に取り組んでおります。



早期水稲



サトウキビ



原料用さつまいも



安納いも

農業の概要 (農林業センサスより)

○農家数 農林水産省 統計情報 (農林業センサス) (単位: 人)

区 分		H12	H17	H22	H27	R2	令和4年3月末現在	
販売農家	専業農家	265	301	362	382	139	認定農家数	74経営体
	第1種兼業農家	179	183	74	82	118	担い手農家数	226戸
	第2種兼業農家	476	322	201	284	253	農業生産法人	11法人
自給的農家		136	161	136	146	111		
合 計		1,056	967	884	783	621		

○新規就農者 () = 国農業次世代人材投資事業【 】 = 町新規就農・後継者事業 (単位: 人)

H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
6 (5)【1】	4 (2)【2】	2 (1)【0】	3 (3)【0】	4 (4)【0】	3 (3)【0】	2 (2)【0】	3 (3)【0】	0 (0)【0】

○基幹的農業従事者数割合 (平均年齢は、推定年齢) (単位: %)

	30未満	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	平均年齢
平成17年	8.3	6.2	17.5	19.4	23.0	25.6		
平成22年	1.2	2.7	7.8	20.1	26.2	35.2	6.8	64.5歳
平成27年	0.3	2.5	6.5	27.8	29.8	23.2	9.9	64.0歳
令和 2年	0.3	1.9	6.2	19.0	38.2	23.5	10.9	65.6歳

○経営耕地面積規模別農家数割合 (単位: %)

	1ha未満	1ha以上	2ha以上	3ha~5ha未満	5ha以上	平均耕作面積(ha)
平成 2年	27.8	36.8	20.1	12.5	2.8	
平成17年	27.1	33.5	19.1	14.1	6.2	2.12
平成22年	28.9	27.5	19.6	16.0	8.0	2.33
平成27年	27.0	24.4	21.4	15.4	11.8	2.73
令和 2年	26.6	26.8	16.4	15.7	14.4	3.47



キヌサヤ・スナッポ・ソラマメ



茶



葉たばこ

作物+畜産
生産額
約28億円



パッションフルーツ
ポンカン・タンカン

○耕地面積

区 分						(単位: ha)		
		H12	H22	H27	R2	荒廃農地		
耕地 面積	田	769	739	722	721	田	20.9	21.6
	畑	1,710	1,470	1,460	1,440	畑	67.2	65.4
	小計	2,480	2,209	2,180	2,160	小計	88.1	87.0
町総面積 (km ²)		11,036	11,000	11,036		A分類	45.8	46.7
農業振興地域				9,567	86.9%	B分類	42.3	40.3
農用地区域				2,032	18.4%	(農地利用状況調査より) A分類=再生可能な荒廃農地 B分類=再生困難な荒廃農地 ※田の作物不作付地139ha含まず。		
農振白地				7,534	68.4%			
森林林面積				6,124	55.6%			
国有林				1,440	13.0%			
民有林				4,685	42.5%			

○農林水産業生産額

(単位: ha・頭, トン, m³, 千円)

区 分		令和3年度 (実績)			令和4年度 (計画)		
		面積頭数	生産量	金額	面積頭数	生産量	金額
耕種部門	水稻	287.7	1,178	275,601	310.0	1,270	258,325
	甘しょ	250.7	5,445	206,763	255.0	5,100	194,500
	さとうきび	452.0	28,381	641,155	460.0	27,600	579,600
	茶	15.9	29.0	31,088	16.0	26	38,400
	野菜	190.5	1,816	247,541	196.7	2,757	405,865
	花き	20.5	7,855	145,077	20.5	8,140	155,636
	果樹	25.6	132	39,449	26.0	200	67,900
	小計 (その他含)	1,266.1	45,108	1,674,075	1,305.7	45,352	1,661,933
畜産部門	乳用牛 (経産牛)	308		283,221	310		279,200
	肉用牛 (母牛)	1,865	1,202	821,593	1,870	1,220	744,500
	養鶏	3,100		7,500	2,500		6,000
	小計 (その他含)			1,130,801			1,029,700
林業	木材生産		1,108	5,263		810	3,811
	特用林産物		52,701	51,936		25,170	24,811
	小計			26,290			26,374
水産部門			61,143	167,979		70,447	177,068
合 計				2,999,145			2,895,075

フェニックスロベレニー



レザーリーフファン



和牛(生産牛)



酪農



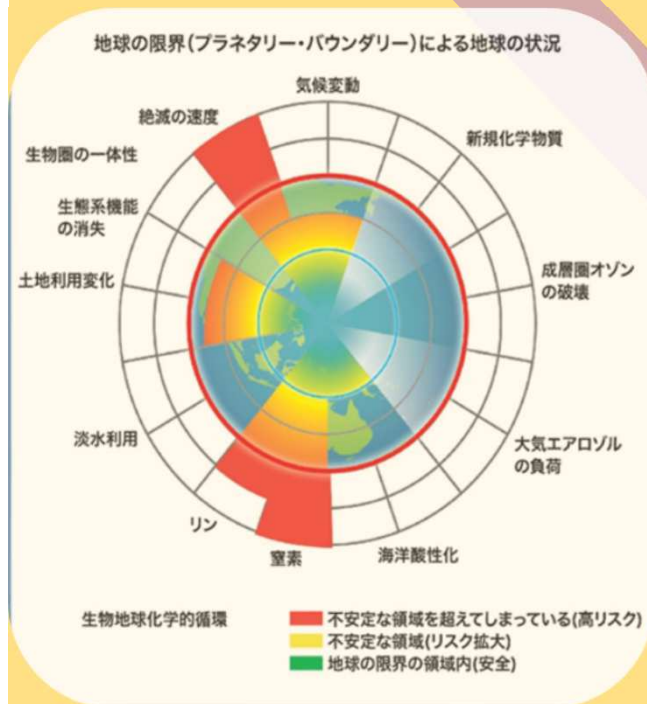
特用林産物(シキミ・ヒサカキ)

有機農業推進に至った経緯

国内農林水産業の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

地球環境の悪化



南種子町の現状

- ・人口減少の抑制対策が急務。
- ・基幹産業である「農業」も高齢化により担い手不足が深刻。
- ・農業の担い手不足・高齢化に伴い、今後、耕作放棄地の増加も懸念。
- ・新規就農者に「有機農業」を希望する方が増加傾向。
- ・移住希望者の中にも、農業での移住を希望する方あり。
- ・有機農業のノウハウを持った人材の不足。

オーガニックなまちづくり

「有機農業」を軸とした人口減少対策による地域の活性化、持続可能なまちづくりを目指す。

(現在までの経過)

R2

- 内閣府の地域未来構想20オープンラボに南種子町と(有)かごしま有機生産組合が登録していたことから、連携スタート。

R3

- 令和3年12月20日(月), 南種子町×(有)かごしま有機生産組合で相互に連携・協力・協働し, 「有機農業を軸とした地域活性化」を目的とした, 包括連携協定を締結。
- 令和4年3月7日(月), 南種子町有機農業推進協議会を設立。

R4

- 農業者が有機農業に容易に取り組め, 消費者が有機農業により生産される農産物を容易に入手できるよう, 有機農業の核となるモデルタウンを育成し, 有機農業の面的拡大を図ることを目的とし, みどりの食料システム戦略交付金を活用した, 就農・農地・生産技術・普及流通の各分野での取り組みを開始。

南種子町×かごしま有機生産組合

『有機農業』を軸とした地域活性化に関する包括連携協定

【連携事項】

1. 有機農業の普及
2. 有機農業に係る技術支援・人材育成
3. 有機農業を軸とした魅力あるまちづくり
4. 荒廃農地の復旧や新規就農者の確保
5. 地域自給ネットワークづくり
6. その他, 持続可能なまちづくり, 食と農と暮らしを守るために必要な事項



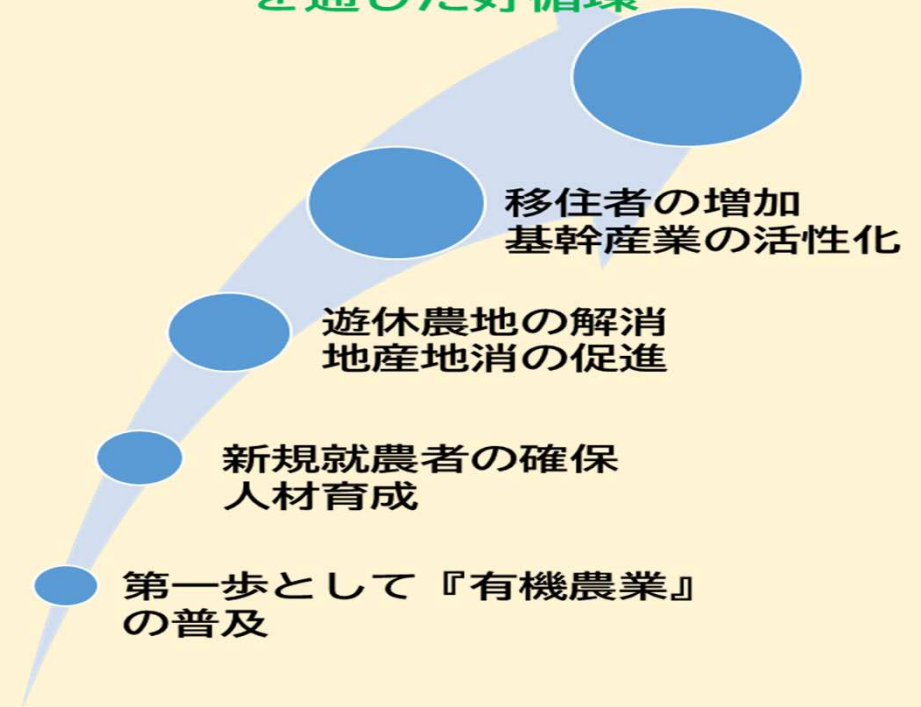
(協議会の役割)

取組の方向性

従来の「農業分野の支援＝農作物の生産振興」に収まらない、農場から食卓までの広義の『農』の振興を図る。

- 既存の農法や農産物に新たに「有機農業」「スマート農業」「半農半X」等が加わり、新規就農希望者や消費者に選択肢の幅と多様性が生まれる。
- 多様な『農』の在り方が相互に良い影響を及ぼして発展していく。

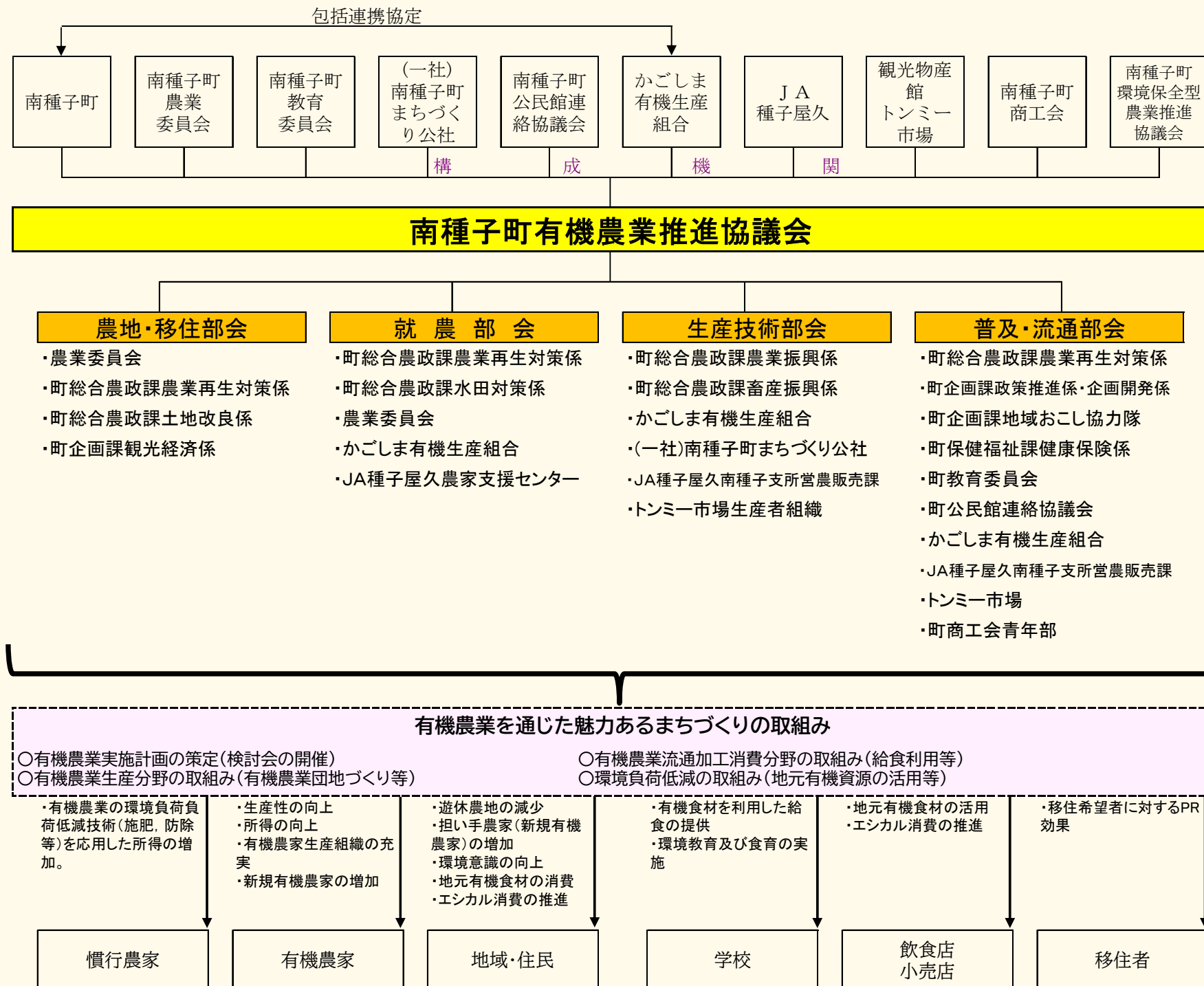
オーガニックな町づくり
を通じた好循環



取組のポイント

- (1) 有機農業者数の増加
- (2) 有機農業に関する技術支援
- (3) 有機農産物の流通環境の整備
- (4) 有機農業に対する消費者理解の促進

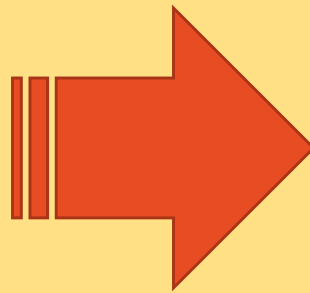
(南種子町有機農業推進協議会組織図)



(令和4年度の取り組み状況)

農地・移住部会

(1) 遊休農地の復旧



有機栽培ほ場として活用

(1)新・農業人フェア出展

令和5年1月14日(土)
農業EXPO@東京国際フォーラム

(目的)

近年、Iターン移住者を中心に、有機農業での新規就農を相談される方が増加してきている。こういった傾向から、潜在的な有機農業での新規就農希望者は、相談件数以上に存在していることが予想される。また、コロナ禍でより一層強まった田園回帰の流れの中で、南種子町の有機農業推進の取り組みを広くPRすることで、有機農業を希望する新規就農者を多く呼び込むことが狙い。

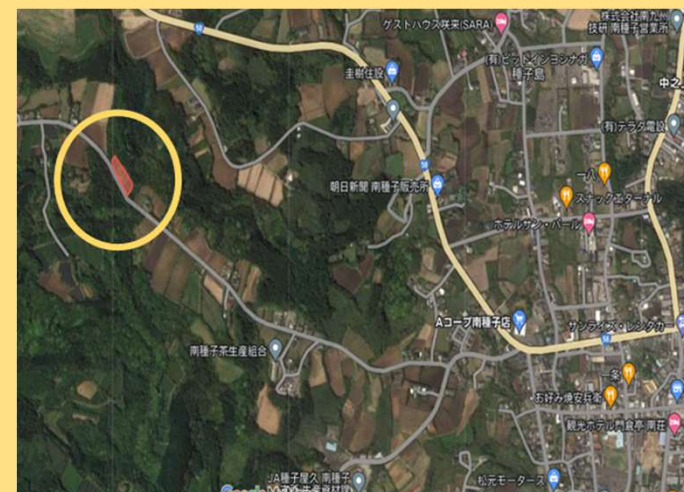
(1) 有機農業体験ほ場の設置

遊休農地を復旧し、普及流通部会と合同で開催する「有機農業体験イベント」の開催ほ場を整備した。

品目：ばれいしょ、にんじん、大根、レタスなど約20品目

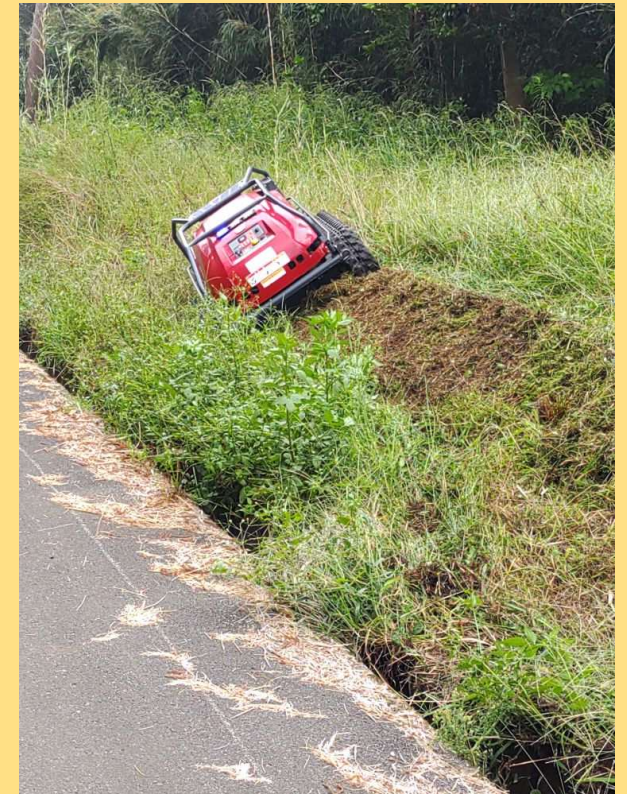


	主な品目
Aエリア	ばれいしょ
Bエリア	大根, カブ, 白菜, ブロッコリー, 小松菜, ほうれん草, キャベツ, 玉レタス, リーフレタス
Cエリア	にんじん
Dエリア	玉ねぎ



(2) スマート農機実証試験

温暖な南種子町は、雑草による減収リスクが高く、中でも除草剤の使用できない有機農業では雑草管理がボトルネックとなっています。また、夏場の除草作業は身体的負荷の大きい作業であり、人手不足や高齢化といった課題も抱える南種子町で有機農業の面的拡大を目指すにあたり、解決しなければならない課題です。その解決策の一つとしてスマート農機活用の可能性を探りました。



令和4年10月12日(水)
第1部 @前之浜海浜公園
第2部 @南種子町育苗施設

(3)生産者組織の充実

(現状と課題)

- ・令和3年度時点での南種子町内の有機農業面積は約8.5ha(内、有機JAS認証取得面積6.2ha)で、全経営耕地面積1,587haに占める割合は約0.5%(有機JAS認証面積割合0.4%)である。品目は、青果用さつまいも3.9ha、ばれいしょ1.4ha、茶2.5ha、たんかん0.6haであり、有機農家戸数は9戸である。
- ・現在、生産者組織は無く、生産・販売等、各々取り組まれてきたため、有機農業者同士の交流は少ない。ただし、有機農業に近い方法で栽培し、主に地元の物産館(トンミー市場)に出荷する小規模生産者等から、有機農業について交流会や勉強会を行える組織の要望がある。また、今後、有機農業者数を増やすための拠点とするため、有機農業者組織が必須である。
- ・現状では、当協議会の生産技術部会を中心に生産者に声かけし、勉強会等を開催している。
- ・今後、新たな有機農業者組織を設立する計画。



島内の有機農業者との交流会

(1) 有機農業体験イベントの開催

(目的)

有機農業の普及(生産, 流通, 消費, 食育, 環境教育等の各分野)

- ①生産者, 消費者, 児童等を対象とした有機農業体験を実施し, 有機農業に関する情報発信や交流の拠点とする。
- ②生産物は給食等で利用し, より多くの方への波及効果を狙う。

(対象者)

日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団員及び保護者

(体験内容)

- ①R4.10.8(土) 植付け作業
- ②R4.12.3(土) 管理作業(間引き), 収穫(カブ, 大根, 小松菜等), 植付け(玉ねぎ)
- ③R5.1月 収穫作業



(2) 有機給食イベントの開催

(目的)

小中学校児童生徒及び保護者向けの有機農業の普及(食育, 環境教育)

(対象)

町内小学校8校, 中学校1校

(イベント内容)

①R4.12.7(水)

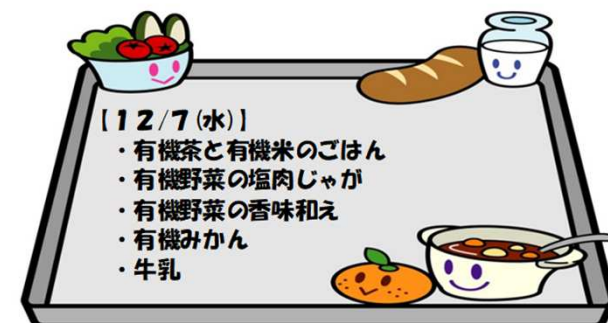
有機給食会開催@長谷小学校

③R5.1.23~1.27(金)

「鹿児島をまるごと味わう学校給食」週間に合わせた有機給食イベントの開催。



有機農業の日 一口メモ



【有機農業】

12月8日は『有機農業の日』です。それにちなんで今日は有機農法で作られた作物をたくさん使用した給食です。

有機農法とは・・・雑草に対して『除草剤』を使わない, 虫に対して『殺虫剤』を使わない, カビに対して『殺菌剤』を使わない, 作物に対して『化学肥料・化学農薬』を使わず堆肥などを使用する環境にやさしい農法のことです。

今, 南種子町は, 有機農業に取り組む農家を増やし, 有機農法を広めようと, 取り組んでいます。南種子町で有機野菜を生産している有馬さんが, 『まずは農業に興味を持ってください。そして, 花でも野菜でもなんでもいいので, 種を蒔いて育ててみてください』とみなさんにメッセージをくださいました。

自分たちが口にする, 食べ物に興味を持つことにつながると思います。ぜひ, 取り組んでみてくださいね。動画にもあるように, 南種子町の有機作物が給食に取り入れられる日も近いですね。

生徒に配布された資料

有機給食 食育動画 「南種子町のリサイクル」 3分28秒



YouTubeチャンネル「種子島みなみたねチャンネル」で、ご視聴いただけます。

(3) 講演会・オーガニック映画上映会の開催

(目的)

有機農業の普及(消費, 食育, 環境教育等の分野)。

農業の生産力向上と持続性の両立【SDGs】の取り組みである有機農業について, 広く理解してもらい, 「応援消費」を促す。

(内容)

①R5.1. 8(日) 菌ちゃん先生講演会「吉田 俊道氏」

②R5.2.25(土) オーガニック映画「食の安全を守る人々」上映会 & 講演会「山田 正彦氏」

無料

菌ちゃん先生講演会

講師に吉田俊道先生を迎えて
2部構成の講演を実施した後
皆さんの質問にお答えします。

2023.1.8(日)
南種子町福祉センター

【第1部】13:00-15:00
「土の元知、野菜の元知、人の元知〜有機農業が人と社会を変える」

【第2部】15:20-17:00
「菌ちゃん先生づくりの世界」

事前申込制

- 申込期限: 令和4年12月1日(木) ~ 令和4年12月27日(火)
- 申込方法: 下記の①〜③のいずれかで申し込みください。
①南種子町公式ウェブサイトから ②右記QRコードから
③申込用紙をトナー市庁舎へ持参

南種子町有機農業推進協議会事務局
(総合窓口課 農業課内) tel: 0997-26-1111 (内線313)

QRコード: (1) 南種子町のホームページからダウンロード
【お申し込みフォーム】

その他

(1) 児童生徒向け出前授業の実施

(目的)

子供たちが、「農業」「食」「環境」と「自分」が繋がっていること【循環】を実感してもらい、将来の消費行動に影響するような考え方を提示する。

(内容)

- ①R4.11.29(火) 西野小学校3・4年生「総合的学習の時間」
- ②R4.11.30(水) 種子島高校生物生産科1年生「島内農業視察」

(講師)

- ・(有)かごしま有機生産組合種子島事業部 有馬 亮氏
- ・町内有機農業者 向江 司氏
- ・南種子町有機農業推進協議会事務局



R4.11.29(火) 西野小学校



R4.11.30(水) 種子島高校



(2) 情報発信[町広報誌・SNS]

(目的)

町内外に広く周知することで、関係人口の増加や仲間作りに繋げる。

(内容)

- ①町広報誌連載「MINAMITANE ORGANIC DIG」
- ②協議会Instagramの開設及び発信

10月のハイライト
10月26日(水)、全国オーガニック給食フォーラムが東京都中野区にて開催されました。有機農業の推進に取り組む全国の首長やJA、生産者グループ、消費者が一堂に会し、国が定めた「みどりの食料システム戦略」が目指す持続可能な社会を実現するために大きな鍵となる「オーガニック給食」の実現に向け、思いを一つにしました。南種子町からも協議会事務局のほか、副町長、トンミー市場、商工会、主食用米生産農家に参加し、町の現状と目標を再認識する良い機会となりました。
オーガニック給食は、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの「環境に良い影響」、地域循環やフェアトレード(生産者が公正に価格決定できること)などの「社会に良い影響」をはじめ



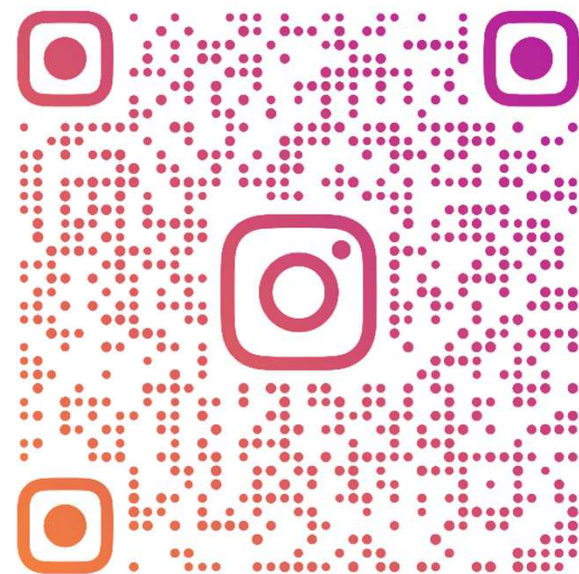
南種子町有機農業推進協議会
(役場総合農政課内)
☎ 26-1111 (内線 311)



日々の中で見つけた ORGANIC
を事務局員が発信
Instagram 始めました！



めとする様々な「良い影響」を地域にもたらす取り組みです。実際に有機米給食を実現した自治体では、給食の残さが減少したり、子どもたちが環境や農業に関心を持ったりと沢山の「良い影響」が生まれているそうです。南種子町においても、12月7日に「有機給食会」、令和5年1月23日から27日にかけて「鹿児島をまるごと味わう学校給食週間」に有機食材を使った給食の提供を予定しておりますので、今後の取組みにご期待ください。



MINAMITANE_ORGANIC

日々の中で見つけたORGANICを事務局員が発信。Instagram始めました！

(3)勉強会の開催[協議会会員・技連会会員対象]

(目的)

協議会会員や南種子町農林業技術指導者連絡協議会会員対象の勉強会を開催し、有機農業の理解を深め、普及啓発を進める。

(内容)

- ①R4. 8.28(日) オーガニック映画上映会「いただきます2 オーガニック給食編」
- ②R4.10.19(水) 「有機農業研究者会議2022」パブリックビューイング



R4. 8.28(日) オーガニック映画上映会「いただきます2 オーガニック給食編」

(4) 先進地視察

(目的)

組織運営(仲間づくりの秘訣など), 組合×生産者×消費者の関わり方, 経済的な持続性(収益性)確保の取組み(マーケティングや生産性向上対策, 付加価値付与など), オーガニック給食の推進について先進事例を学び, 現状の課題を認識し, 有機農業の面的拡大及びオーガニック給食の実現につなげる。

(内容)

- ①R4.10. 4(火) 新篠津つちから農場株式会社@北海道石狩郡新篠津村
- ②R4.10. 5(水) 北海道有機農業協同組合@北海道勇払郡安平町
- ③R4.10.26(水) 全国オーガニック給食フォーラム@東京都中野区
- ④R4.10.27(木) 有機米の取組み@千葉県木更津市



新篠津つちから農場株式会社



北海道有機農業協同組合



全国オーガニック給食フォーラム



千葉県木更津市

ご清聴ありがとうございました